

# OKoTaC 通信

2017年6月30日発行

## NO.35

### オコタック



- P 2 NPO活動報告(1)**  
『第7回オコタック総会、および特別講演』
- P 3 NPO活動報告(2)**  
連続セミナー『最近気になる国・地域からの子どもをめぐって <ネパール編>』
- P 4 地域の子ども支援教室から㊤**  
『学習支援「さぼると」&居場所づくり「こどももっと」』（箕面市）
- P 5 Air Mail メキシコ便り㊥**  
『オアハカのセラゲツァ（前篇）』
- P 6 特別寄稿**  
『継承ベトナム語を学ぶ子どもたちに寄り添って』（2）
- P 7 NPO活動報告(3)**  
『大阪府教育委員会委託事業「ピアにほんご」』  
『「てんとてん」マルチメディア DAISY 版と YouTube 版完成』
- P 8 イベント情報**





## おおさか子ども多文化センター 活動報告(1)

### 第7回オコタック総会、および特別講演

5月28日(土)、ヒューライツ大阪セミナー室にて、オコタックの2017年度総会を開催しました。会員85名中、出席数19名、委任状53名、合計72名で総会は成立しました。濱名理事長の挨拶ののち、事業報告、決算報告、理事の選任、活動計画、予算案の順に報告・提案が行われ、すべて承認を得ました。

引き続き、桃山学院大学国際教養学部の友沢昭江先生に「外国人児童生徒の複数言語能力の研究 - 家庭言語環境調査から見えること」と題して特別講演をお願いしました。会員のおひとり、坪内好子さんが講演の感想を寄せてくださいましたので紹介させていただきます。(Y.H)



★ ★ ★ ★ ★

友沢先生の特別講演を拝聴しました。これは2017年3月に行われた、平成24～28年度科学研究費補助金基礎研究(B)研究成果報告会「外国人児童生徒の複数言語能力の縦断的研究—何もなくさない日本語教育を目指して」(研究代表:真嶋順子、大阪大学)を基にした貴重なお話でした。

この調査は実際は平成21年度から計8年間にわたって行われ、大阪府内の小学校の中国ルーツの児童14名の2言語能力とその言語環境について調べられました。そしてそれは1年生と6年生の時の2回保護者に行った家庭環境調査の結果を含めてのもので、とても興味深いものでした。同じチームの研究者が1, 3, 5年生の時に日中2言語の能力の評価を行い、6年生の時の調査では一部の保護者にインタビューも行われ、そこではより具体的な回答もあり……、等々調査内容については詳しくお知らせしたい思いがいっぱいですが紙面が足りません。やむなく一部ですが先生の「インタビューから感じたこと」から抜粋させていただきます。



家庭内でのコミュニケーションは親が中国語で話しかけ、子どもが日本語で答えるという単純なパターンばかりではないというくだりです。

- ①親は自身の日本語力を使い、日中混合で話すことが多い。
- ②親の日本語能力が低い場合、中国語使用を徹底する(子どもが理解できるように言い換える工夫をする)ケースと、親子の会話量が限定的で少なくなるケースが見られる。
- ③親子のコミュニケーションの場として夕食が重要な役割を持つ。
- ④父親の日本語能力が低い家庭でも最終決断は父親、最も威厳があるのは父親というケースと、父親自身がその立場を放棄しているケースも見られた。

以上抜粋ですが、講演をお聞きして、家庭によっては親子の会話や母語に触れる機会が少ない場合もあり、家庭と学校どちらでも母語に触れる環境づくりが必要ではと感じさせられました。子どもに対応する現場では、家庭によって想定できるさまざまな場面を考えて支援していきたいと思います。ご講演ありがとうございました。

第1回 外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会のお知らせ(オコタック主催)

#### 「外国にルーツをもつ子どもの書く力を育てる学習支援」

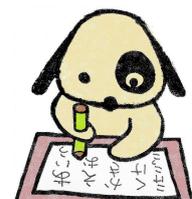
【講師】 清田淳子さん(立命館大学文学部教授)

【日時】 7月9日(日)午後1:30～4:00(受付1:00～)

【場所】 国労大阪会館3F 中会議室(大阪市北区錦町2-2) JR環状線「天満」駅下車徒歩5分

【参加費】 500円(オコタック正会員は300円) 【定員】 50名(先着順)

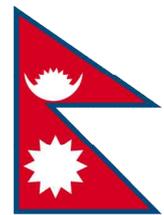
【申込み】 名前、所属、住所、電話番号、メールアドレスを記入の上 e-mail: osakakodomo@gmail.com に。





## おおさか子ども多文化センター 活動報告(2)

### 第1回 外国にルーツをもつ子どもの教育支援連続セミナー 『最近気になる国・地域からの子どもをめぐって <ネパール編>』



今年度も、ヒューライツ大阪と共同で「外国にルーツをもつ子どもの教育支援連続セミナー(3回)」を開催することになりました。

第1回目は6月3日(土)に行ったネパール編。講師には、とよなか国際交流協会においてネパール人の相談・支援などに取り組まれている山本愛さんをお迎えして、外国への移住者を送り出すネパール社会の背景、そして日本での子どもたちの直面する課題について報告していただきました。

法務省の統計によると、在住ネパール人は2011年12月末で20,383人でしたが、2016年12月末には67,470人に増えています。それに伴い、学齢期の子どもたちも増えていることから、日本語をはじめとする教育現場におけるさまざまな課題が浮上しています。

当日の参加者は44名と会場が一杯になりました。学校関係者が多かったことが印象的で、学校現場では緊急の課題であることを実感しました。セミナーの様子をオコタック会員、西村雅人さんに報告していただきます。(Y.H)

首をかしげる動作が「はい」だという事に、まずとまどったという山本さん。ネパールでは左手は不浄の手、トイレは左手で洗う。人に触ったりするときは必ず右手で、でも頭は神様が宿るところなので触らないように。ネパールのソウルフ



ードはダル(豆)バード(ごはん)、ナンは料理屋さんで食べるもので家では米。味付けは塩とスパイスで、砂糖は入れない。ネパールから来た子どもたちは、小学校の給食が甘くてなじめない。牛はヒンドゥー教徒・仏教徒にとって神聖なもので、食べちゃいけないものとされているが、食べる食べないは人によっていろいろだそうです。

ネパールはインドとチベットの文化圏の人たちで成り立つ多民族国家。ヒンドゥー教の影響が強く、家父長制とカースト制度が強く残っている。カースト制度はこれまでカーストと関係がなかったネパールの民族もカーストに組み入れて存在し、名前ですぐわかる厳しい身分制度です。

また、女性の地位は低く、若者の識字率においては男子87%、女子39%と大きく差がある。1996年から10年にわたる内戦による地方の疲弊は大きく、生活不安、雇用機会の減少、高等教育機関の不足などから、若い男性を中心に出張労働が増加。インド、西アジア、東南アジア、日本・韓国さらに英語圏へ移住労働がすすんでいる。

日本へはインド・ネパール料理店で働く料理人として来る人が多く、家族を大切にしているネパール人は、家族の再統合のため家族を呼び寄せる。だが、料理人としての待遇は厳しく、生活は苦しく、将来的展望のない人も多い。

そんな親たちの「呼び寄せ」で日本に来る子どもたちの問題点を山本さんは次のように指摘された。まず学校の受け入れ体制が整っていない、日本社会の仕組みがわからない、親の社会資源が豊かでない、そして、親の不安定な生き方に子どもが振りまわされる。そんな状況の中では、「あなたの居場所がここにある」との学校の先生の一言が、身近な人間関係を大切にしているネパール人にとって『希望』になると訴えられました。

講演のあとの質問コーナーは、「教育委員会を通じず、お父さんが子どもをつれて直接学校へ来られた」「受け入れたが、学校生活になじめない」「母語で相談できる場所は?」「中学生だが、ネパールの人たちと交流する場がほしい」などの質問があいつぎました。そして、「とよなか国際交流協会では母語での相談に応じている」「日本語教材のネパール語版がネットにある」「大学の留学生に声をかけてみます」「うちの高校にはネパール人が4人在籍しています」などと、最後には情報交換会になりました。

会の終わりには「明日から役立つネパール語」を教えてくださいましたが、その日の夜、枚方の日本語教室に行くとネパールの青年が入会してきたので、さっそくデレイ(とても)ラムロツァ(いいね)と声をかけて、喜ばれました。



ネパール 国花 シャクナゲ



## 外国にルーツをもつ子どものサポート事業

### 学習支援「さぼると」&居場所づくり「こどももっと」(箕面市)

箕面市国際交流協会では、2003年より外国にルーツをもつ子どもの学習サポートと彼らが安心できる居場所を提供するための事業「子どもほっと」(設立当初「ほっとひろば」)を実施してきました。しかし、協会が拠点を多文化交流センターに移した2013年頃から参加者数が増加。インターナショナルスクールと公立学校、日本生まれと外国生まれ、小学生の日本語学習から高校卒業後の仕事探しなど、子どもたちの背景やニーズも多様になってきました。そこで、今年度からは子ども事業をつくりかえることに。今まで同じ時間・場所で行っていた「学習支援」と「居場所づくり」の機能をそれぞれにわけて、下記のとおり展開することになりました。

#### 学習支援「さぼると」

対象：日本語や教科学習のサポートが必要な、日本の学校に通う外国にルーツをもつ子ども(小学生～高校生)

内容：日本語学習、教科学習

時間：毎週土曜日 10:00～11:30

サポーター：地域市民中心



#### 居場所づくり「こどももっと」

対象：外国にルーツをもつ子どもなら誰でも(小学生～高校生)

内容：自由にゲームや工作、宿題など、したいことをしながら仲間に出会い、つながる場

時間：毎週土曜日 13:00～16:00

サポーター：外国にルーツをもつ若者中心

「さぼると」とは、「サポート」と「ポルト(ポルトガル語で港)」を組み合わせた造語。ここに来る子どもたちが錨をおろし、勉強をして力を蓄えて、また広い世界に旅立っていける居場所になるようにとの思いから名づけました。今後は学校や家庭と連携した、継続的な支援を目指します。また、こうした事業に参加していない/できていない子どもたちにこそサポートを届ける必要があるのではないかと、との課題意識を持ちました。そこで、学校等との連携をさらに進め、支援を必要とする子どもたちとその保護者に積極的に関与し、ソーシャルワークも行うなど教育相談機能を強化することでより多くの子どもに繋がっていきたいと考えています。



「こどももっと」には、「もっと」たくさんの外国にルーツをもつ子どもたちが「もっと」自分らしく過ごし、それぞれの可能性が「もっと」発揮できるような場所になるように、との思いが込められています。彼らの自尊感情を育みながら、外国にルーツをもつ仲間とつながる中で、他者と認めあえる関係をつくるのが目標です。また、サポーターとして「子どもほっと」OB/OGである外国にルーツをもつ若者たちが関わり、「こどももっと」の「場づくりアシスタント(BA)」としてロールモデル的な役割を担うことで、若者たち自身のエンパワメントにもつながっていきたいと思います。

まだまだ始まったばかりですが、両事業を通して、地域で子どもたちを支え、外国にルーツを持つことを子どもの「力」として活かすまちづくりを進めていきます。  
(箕面市国際交流協会 村田 里鶴)

活動場所：箕面市立多文化交流センター

〒562-0032 箕面市小野原西5丁目 2-36

※阪急バス「小野原西5丁目」から西へ徒歩5分

問合せ：TEL 072-727-6912 (9:00～17:00) ※月曜休館(祝日除く)

E-mail info@mafga.or.jp (担当:金、村田)



### メキシコ便り③ 「オアハカのゲラゲツァ(前篇)」

(おおさかこども多文化センター会員 金野広美)

メキシコでは日本の七五三にあたる、子どもの成長を願うための大きな行事が3歳の誕生日に行われます。私の友人のデルフィーナが「妹の孫のフィエスタ(誕生日会)が7月24日にオアハカであるので行かないか」と誘ってくれました。折りしも7月27日はオアハカのインディヘナの民族舞踊の祭典であるゲラゲツァも開かれるので、これも見ることができるとふたつ返事で招待を受けることにしました。オアハカにはデルフィーナのいとこのマウロの車で行くことになり、7月23日の夜、デルフィーナの2人の息子、トーニョとヘラルド、そしてマウロ夫婦の総勢6人で深夜零時半、メキシコ・シティを出発しました。2時間ほど過ぎ、私がうとうとしていると、車が急にストップしました。なんとタイヤと車体をとめてある5本の軸のうち3本が折れたのでした。運転手のマウロはすぐ電話で連絡をとっていましたが、なにしろあたりは何もない真っ暗闇、星がきれいに光っているだけです。4時間ほどすると修理人が車で着きましたが、部品がないとかでマウロと一緒にどこかに行ってしまう、結局、車が止まってから8時間後ようやく出

発できました。くねくねした山道を車はすごいスピードで走ります。マウロの運転があまりに荒いので私は生きた心地がなくて、早く着いてくれないかと祈るような気持ちでじっと我慢していると、2時間後またしても車がストップ。なんと今度はエンジンから煙が上がっているではありませんか。エンジンオイルが空っぽになっていたのです。「も一信じられな一い」。でもこれで車から降りることができると内心はほっとしました。この車、まだ新しそうだったのに、メンテナンスが全くできていなかったのです。



デルフィーナと2人の息子たち

メキシコでは車はとても高いのです。給料は日本の半分以下なのに車の値段は同じくらいです。そのため大半の人は月賦で車を買うため、返済に追われてメンテナンスにはお金をかけない人が多いのです。おまけに運転が荒いので、道路にはトベといって小さな山型の障害物がたくさん作られています。トベの前ではブレーキをかけてゆっくり通過しないと頭を天井にぶつけてしまいます。何度も何度もブレーキをかけなければならないため車は早く傷みます。だから余計にメンテナンスが必要なのですが…。おまけにメキシコでは免許証は買うもので、日本のように自動車教習所のテストに合格しないともらえないものではありません。運転は親に習い、メンテナンスの知識も十分ではありません。友人の話によると、たいがいの人は定期点検などせず、車は故障するまで乗り、故障したら親戚の車に詳しい人に直してもらおうというのです。なんとも恐ろしい話です。私はもう2度と個人の車には乗らないことに決めました。

このように散々な目に会いながらも、バスとタクシーを乗り継いで着いたデルフィーナの妹さんの村は、オアハカのパトナル・デ・サンティアゴ・アポストルという、山あいにある人口300人の小さな村で、緑にあふれたとても静かな美しい村でした。夕方6時に着いたためフィエスタはすでに始まっていました。白のスーツを着たこの日の主役のオスカル君はとてもかわいい子で、みんなに祝福され、はしゃぎまわっていました。バルバコアというウモロコシの実をつぶしてゆがいたものの上にやわらかい肉がふんだんにのったお祝い料理をいただき、ビールをいっぱいご馳走になりました。祭りのときには呼ばれて演奏するというギターを抱えた村の親子が、にぎやかなバンダやコリーダ、ランチェーラを演奏し、私もみんなと一緒に踊りました。村の半数は親戚だといわれるくらいのところなので、招待客の数も半端ではありません。多くの人が入れ代わり立ち代わり朝まで飲み、食べ、踊り明かすのだそうです。しかし、私たちは前夜ほとんど寝ていないので、11時ごろにはひきあげさせてもらいました。



## 特別寄稿 「継承ベトナム語を学ぶ子どもたちに寄り添って」(2)

近藤 美佳(ベトナム語講師・通訳・翻訳)

前回のお話にも出てきました、B 小学校の V ちゃん。こんなこともありました。「靴」の絵カードを見せてこれはベトナム語で何?と聞くと、「知らない」と言います。そこで、「おうちでお母さんが“Mang giày đi con. (靴を履きなさい)”なんて言ったりしない?」と質問してみると、聞いたことがあると言います。そこでさらに、「それを言われたら、V ちゃんはどのようにするの?」と返すと、「うーん、おでかけするんだなと思う」と答えるのです。

このように、継承語話者である子どもたちは「聞けばその状況は想像できるけれど、それが何を意味するのかはつきりしない」、「聞けばなんとなく理解できるけれど話せない」という習得段階にすることが少なくありません。しかし、周囲からは「ベトナム人なんだからわかるはず」、「聞いてわかるのなら話せるはず」等と過度な期待をかけられ、そのために「話せない」、「やる気がない」等と低い評価を受けてしまうことが多いようです。そうになると、子どもたちは自分の能力に自信を失くし、学習のモチベーションも下がってしまいます。

上記の V ちゃんの状態を受け、「靴」という単語の知識すらない」という評価を下して「靴」という単語を教え込むことは簡単ですが、わたしはそれよりもまず「“Mang giày đi con. (靴を履きなさい)”という発話を聞き取って、それが何を意図しているかを理解できる力」を、たくさん褒めてあげたいと思います。褒められるという経験によって、今ある力に自信を持つことができ、今後さらに力を伸ばしていくための動機も芽生えるのではないのでしょうか。

C 小学校の A ちゃんと H くんは、ふたりとも就学前に来日しました。個人懇談でお母さん方から「最近、ベトナム語で話しかけても日本語で返ってくる」という相談を受けたことを機に、学校でベトナム語学習を始めることになりました。最初のうちは話すことに抵抗を示していたふたりですが、ゲーム形式にして競い合うことでふたりともたくさん発話するようになりました。

そんなとき、国際理解教育の一環として、A くんが在籍する学年に対してベトナムの紹介をすることになりました。そこで、ふたりに先生役をお願いすると、いつもははにかみ屋さんのふたりが、大きな声でベトナム語を披露してくれたのです。そんな A くん、H くんを見て、クラスのみんなからは「A がベトナム語しゃべれるなんて知らなかった」、「H くん、すごいと思った」などの感想があがりました。A くん、H くんだけでなく、クラスのみんなにとっても、ベトナムの国の文化や言葉について知るよいきっかけになりましたし、同じクラスの中にそんな力を持った仲間がいるんだという気づきは、きっとクラスメイトに大きな影響を与えたことと思います。

それから間もなくして、C 小学校はベトナムからの転入生を迎えたのですが、そのときにはふたりが頼れるお兄さんとして、しっかり通訳を務めてくれました。そんな経験もあってでしょうか。卒業を迎えた A くんは、卒業式で「外国の人にわかりやすく伝えられる通訳士になりたいです」と堂々と宣言していました。転入生のお手伝いという、ベトナム語を使って人の役に立つ経験を通して、ベトナム語を話すことのできる自分への自己肯定感を高められたのだと思います。

(つづく)



みんなの前でベトナムの「先生」をする A ちゃんと H くん



## おおさか子ども多文化センター 活動報告(3)

### 大阪府教育委員会委託事業「ピアにほんご」

大阪府日本語教育学校支援事業(ピアにほんご)を、2017年度もオコタックが受託することが決まりました。2011年度から受託が始まり、7年目になります。今年度は、十分ではないですが受託予算が増額されたので、昨年度より教育サポーターの派遣回数を増やすことができます。

しかし、日本語指導を必要とする生徒の数は増加傾向にあり、まだまだ必要とされる教育サポーターの派遣はできていないのが現状です。

今年度から、日本語指導を必要とする生徒のための特別枠のある高校として東淀川高校が増えました。しかしながら、特別枠校に入学できなかった生徒が、一般校や定時制課程に多く入学したため、教育サポーター派遣の必要度は高まっています。行政の教育予算は、減額されることがあっても、増額することが難しいといわれていますが、ピアにほんごの予算が増額されたことは、教育委員会としても、日本語指導の必要な帰国・渡日生徒の教育が重要課題であることを認識している証拠だと思います。



4月から5月にかけて日本語指導が必要な入学生を一人一人ヒアリングした後、府教委との協議を経て、生徒対象の教育サポーター派遣が5月の中旬以降スタートしました。同時に、保護者懇談通訳派遣も4月から続々と始まっています。学校と教育サポーターが上手に連携を取りながら日本語指導の必要な生徒をサポートすることによって、生徒が入学した高校で十分な学びがあることを願っています。

(Y. M)

### 完成しました！ 多言語電子絵本『てんとてん』 マルチメディアDAISY版とYouTube版

2016年度大阪府人権協会の助成金をいただき、大阪市人権絵本『てんとてん』(作・すぎもとれいこ 絵・ふくだとしお+あきこ)のマルチメディアDAISY版とYouTube版ができあがりました。

10の言語(日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語、インドネシア語、ロシア語)で、朗読を聞くことができ、同時に文字でも読むことができます。

この作品には、「ツンツンツン」「ビューン」などオノマトペが多く出てきますが、それぞれの言語特有の表現に翻訳されていて、音の響きを楽しむことができます。文化・歴史、人々の生活から成り立っている言語は、その言語を通してでしか感じ取ることができない世界観があると思います。同じ絵本をいろんな言語で読むことで、言語の奥深さを味わってみてください。

マルチメディア DAISY 版は、(財)日本障害者リハビリテーション協会 HP

<http://www.normanet.ne.jp/services/download/rainbow.html> で、

You Tube 版は多言語絵本の会 RAINBOW の HP <http://www.003.upp.so-net.ne.jp/ehon-rainbow/> で見るすることができます。

世界的なグローバル化現象で、複数の言語環境で育つ子どもが増えています。母語・継承語を大切にすることは、言語力と人間形成で重要です。世界中で絵本『てんとてん』多言語版を見ることができるので、親子間の密なるコミュニケーション、子どものアイデンティティの確立に役立ててもらえることを願っています。

(Y. M)

\*『ええぞ、カルロス』と『てんとてん』の入った多言語マルチメディアDAISYのCDを希望される方は、オコタック事務所(村上)までご連絡ください。

大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラム(RESPLECT)・オコタック共催企画

「外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会」

『「やさしい日本語」によるコミュニケーション ～ 学校教育の現場から ～ 』

外国にルーツをもつ子どもたちや、その保護者とのコミュニケーションに困っていませんか？

「やさしい日本語」で伝えるための講演会とワークショップを行います。

【講師】 岩田 一成先生（聖心女子大学准教授）

【日時】 7月17日(月、祝) 午後2:00～4:30 (受付1:30～)

【場所】 大阪大学中之島センター 304 講義室 (大阪市北区中之島4-3-53)

【参加費】 無料 【定員】 60名(先着順)

【対象者】 外国にルーツをもつ子どもの教育支援に関わっている方・関心ある方、学校教職員、地域の支援者

【申込み】 名前、電話番号、メールアドレスを記入のうえ以下①②③のいずれかにてご連絡ください。

Eメール ① <http://urx.blue/E0aB> ② [mirai0717pl@gmail.com](mailto:mirai0717pl@gmail.com) ③ FAX 06-6850-6913 (担当 大阪大学 山口)

なお、資料準備のため7月10日(月)までにお申し込みください。



ヒューライツ大阪・オコタック共催企画

「外国にルーツをもつ子どもの教育支援・連続セミナー」第2回

『～ 最近気になる国・地域からの子どもをめぐって～ 〈ムスリム編〉』

【講師】 山根 絵美さん(公益財団法人とよなか国際交流協会職員)

エルモトニ・アシュラフさん(公益財団法人とよなか国際交流協会ボランティア)

【日時】 7月29日(土) 午後2:00～4:00 (受付1:30～)

【場所】 ヒューライツ大阪 セミナー室 (大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル 8F) 地下鉄四つ橋線「本町駅」27番出口すぐ

【参加費】 500円(会員は300円) 【定員】 30名(先着順)

【対象者】 外国にルーツをもつ子どもの教育支援に関わっている方・関心ある方、学校教職員、地域の支援者

【申込み】 ヒューライツ大阪 名前、所属、メールアドレスを記入のうえ Eメール [webmail@hurights.or.jp](mailto:webmail@hurights.or.jp)

または TEL 06-6543-7003 FAX 06-6543-7004

なお、資料準備のため7月26日(水)までにお申し込みください。

<予告> 連続セミナー第3回 9月2日(土) 〈ベトナム編〉 開始時間、場所等すべて第2回と同じ。



多文化共生センター大阪主催・オコタック協力

『多文化フォーラム ～二胡の調べにのせて～』

サタデイクラスの前身の学習支援教室で学んだ張鶴さんによる二胡の演奏と外国にルーツをもつ元子どもたちが語る。

【日時】 8月20日(日) 午後1:30～4:10 (開場1時)

【場所】 道仁連合会館3F (大阪市中央区島之内2-12-19) 地下鉄堺筋線「長堀橋駅」5番出口徒歩6分

【参加費】 高校生500円 大学生1000円 一般2000円

【申込み】 『多文化フォーラム申込み』と記載し名前、連絡先、電話番号またはメールアドレスを記入のうえ8月5日(土)までに

お申し込みください。Eメール [osaka@tabunka.jp](mailto:osaka@tabunka.jp) TEL 06-6390-8201 FAX 06-6195-8812

NPO 法人 おおさか子ども多文化センター (OKoTaC) 代表 濱名猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル8階

Tel/Fax 06-6586-9477

E-mail [osakakodomo@gmail.com](mailto:osakakodomo@gmail.com) URL <http://okotac.org>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜ 味)ウヰリ)

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさか子ども多文化センター』

〔フリガナ: トクヒ〕オオサカコドモタブンカセンター〕

